

## 釣りバカ日誌（番外編）

篠田茂雄

毎度お馴染みの「釣りバカ日誌」秋期編をお送りします。今回の大会は一言でいって「天気晴朗なれど魚遠し」であります。船頭さんの記では、2週間程前の台風の余波で底荒れしてしまったとのこと。出来るものなら本当かどうか潜って真実を確認してみたい……。

海の中はいざ知らず、天気も波もドンピシャリ、しかしなぜか「漁」はいない。「釣り」って本当に難しいなとつくづく感じ入った次第であります。平成7年10月7日（土）当日は晴天秋晴と見渡す限り青空が広がり、心地よい初秋の風にふかれながら、我々、釣キチ総勢53名：船5隻に分乗し「アイナメ」狙いで一路本日の目ざすポイント「大根」に向かってひた走り。約40分程で到着。各人思い思いの仕掛で大漁を狙います。船頭さんの号令一過、清く澄んだ海に向かって本日の第一投をなげ入れます。（ちなみに仙台港近くの海水は、生活粗材等の影響なのか土色に濁り、海という面影は全く消え失せ、夏場になると異臭さえする程で、これも我々人間のなせる仕業と思うと一日も早く環境対策の必要性を痛感させられます。）この瞬間こそ、「恋心」と同

じく、釣人にとって何とも言えない快感であり、今日一日の「ツキ」を判断するくらい「ワクワク」する気分になる時でもあります。

しかし、期待はゼロ、手当たりナシ、こんな素晴らしい天候に恵まれたのになぜ、どうしてなのかと、女性と同じく「漁」の気持ちは解りません。それでも淡い期待を求めて船は、広い海上を右往左往。それでも手当たりナシ。結局、釣っている時間よりも、走りまわっている時間の方が長く感じた程でどうにもならないまま、時間は刻々と過ぎてゆきます。こんな時、船中は、正に人間模様そのもの、ジーと無言のまま糸を垂れる人、冗談を言ってチャカス人、あるいは、もうギブアップして、日光浴を楽しむ人等、人それぞれ楽しいものです。小生は3番目の方で、同乗のSさん同様、本日は「日光浴」ときめこみ、海から見る視界360度の大大パノラマを楽しんでまいりました。水平線の彼方に見える輸送船、又陸地の方に目をやると淡くかすんで見える山並みや、島々、海から見える角度は、全く違った印象を与えるものです。日常せわしなく働いている我々人間がいかに小さく弱

いものか大自然の大きさを改めて痛感させられます。

やがて定刻、全船上がり、港に着いて船宿に戻った時、船宿のおぼさんの一声、「今日はやっぱりダメだったかいなー」この一声が今日一日の全てを表しています。

それにしても何という「冷たい言葉」、胸に「ズシ」とこたえます。皆さん本当におつかれさまでした。しかし我々は釣キチ、こんな時もあります。悪い事は全て忘れて「ケセラセラ」・「ネバーギブアップ」チャレンジ精神を忘れず明日に向かって走り続けましょう。最後に明るい話題を一言。前回、ご紹介しましたK社のSさん、今回も又やってくれました。集合時にこなかったため、またかと話しつつ船は出てしま

ましたが、何と上がって見ると、ちゃんと釣仕度を整えたS氏がニコニコしながら我々の帰りを待っているではありませんか。さすがにK社の釣名人、時間に遅れても身仕度を整えて待っているとさすがに立派。お詫びの印にと「ナン」一箱持参し、皆さんに迷惑をかけたので「特別賞」としてやってほしいとのこと。重ねて感じ入りました。しかし、この「ナン」は、我々幹事の独断で、オクラ入り、我々だけで戴くことになりました。申し訳ない。この「ナン」のうまかった事を報告して「釣バカ日誌番外編」を閉じさせていただきます。また来年お会いしましょう、ごきげんよう。

(サンコーコンサルタント(株))

